

# 関西眼疾患研究会 平成28年度事業報告書

平成28年1月1日より平成28年12月31日まで

本年の事業については、平成28年度の事業計画に基づいて実施し、本会の目的達成に努力した。

## (1) 会員へ向けての定期講演会

### 1. 4月7日(木) 第19回 YOBC TKP ガーデンシティ仙台勾当台

参加者：柳、北澤、坪井、愛新覚羅、青木、伊藤秀一、伊藤晋一郎、伊良、岩本、宇都宮、大西、岡野、河合、川野、北原、木戸、栗家、小早川、小林、澤口、清水、新田、鈴木、摺木、田中、傳野、富田、永本、長屋、長谷川、林勇海、林俊介、福田、真壁、三上、湊、盛、守谷、山田、羅、松澤、水上、堀田、新井、石川、猪俣、大内、大音、奥村、加藤、川上、古泉、小嶋、後藤、小橋、駒井、新開、田中、張、寺尾、永田、難波、野口、松本、三重野、宮谷、諸岡、山岸、山中、山本、横田、坂西(計75人)

特別講演：柳 靖雄 先生 (Singapore Eye Research Institute)

タイトル：誰も教えてくれない眼科医のキャリアパス

今回で19回目となるYOBCで柳靖雄先生に眼科医のキャリアパスについてご講演いただいた。①単純パターン：開業医をめざす、②平凡パターン：関連病院の部長をめざす、③無茶パターン：教授を目指す、の3つのパターンを提示された。さらにその特殊系として④優柔不断パターンを示され、きっちりとしたキャリアパスを描いていない眼科医が多いことを指摘された。柳先生が大学院生の時代は分子生物学の全盛期で多くのシグナル解析が眼科の分野においてもなされた。時はかわり、10年後の今ではOCTを始めとした画像解析の進歩、薬物療法の進歩、手術機器の改善、遺伝子治療の幕開け、再生医療(iPS細胞)など多くの新しい医療が出てきており、valueを意識することの重要性をお話された。多くの研究をされていく中、30歳代半ばになったときに、自分の研究が製薬会社に踊らされている、また患者にアンケートをとったところ、自分が思っていた最新の治療では患者の満足が得られていない事に気づかれた。そこで40歳をすぎたときに、トランスレーショナル研究をするために世界中のラボを訪問し、時には製薬会社にもinterviewをして、最終的にシンガポールのSERIでのポストを得た。SERIでは年間10億円の予算、220人の研究者、年間180本以上の学術論文を排出しており、効率的に研究を遂行している。また、アカデミアが製薬会社と同じ目線で考えて研究することの重要性をお話された。現実に即した大変参考になる講演内容であった。

## 2. 11月3日(木)第20回YOBC 青蓮会館(京都府立医科大学学友会館)

参加者：木下、北澤、坪田、三宅、坪井、石羽澤、後藤、春田、三浦、塚本、松本、水野、青木、山中、三重野、駒井、寺尾、永田、田中、石田、Federico、富岡、高原、川崎、三浦、岸本、江渕、杉浦、井田、坂西、坪田、大内、猪俣、宮本、堀田、山田、愛新覚羅、川野、上野、古谷、新開、加藤、沼、宇都宮、小幡、一山、沼、山下、出口、山本、加藤、松本、富田、川野、福井、楠瀬、河野、高橋、土屋、谷口、諸岡、川端、難波、木戸、富田、木下、脇舂、福岡、上田、菅野、真下、山名、岩間、清水、大本、上川床、三宅、井沢、石田、井村、秦、内野、小川、黒澤 (計84人)

特別講演：京都府立医科大学 感覚器未来医療学 木下 茂 先生

タイトル：夢とロマン

今回で20回目となるYOBCで木下茂先生にご講演いただいた。木下先生の今までの歩んでこられた道のりを紹介されながら、どのようなことを考えながら眼科医として歩んでこられたかについてご講演された。留学先での最初の研究テーマがうまくいかないことに当初から気づいて、自分の力でその方向性を考えてこられたこと、また常にunmet medical needがなんであるかを考えながらしていくことが重要であること、また失敗した時は”chin up”して、その失敗を認める事で次に進む事ができるなど、様々なフィロソフィについてお話された。また現在はフェムトセカンドを用いた白内障手術も手がける等、今でも常に最先端の物にふれていて、柔らかく頭で考えることの重要性を教えていただいた。そして、常に患者目線でものを考え、新しい治療を患者に届けるという熱いメッセージのこもった講演で非常に有意義な講演会であった。

## 3. 11月16日(水)関西眼疾患研究会特別講演

おおしま眼科クリニック 大島佑介先生

タイトル：網膜下出血の診断と治療のフローチャート

明確で理解しやすいフローチャートを、豊富な実症例とともにご講演いただいた。

網膜下出血の原因の多くは、PCVと網膜細動脈瘤の破裂である。受傷1週間以内の新鮮な網膜下出血では、ガス注入が第一選択となる。具体的な手技としては、前房から前房水を抜き、硝子体腔にC3F8を注入する。ガス注入で動かなかった出血、および受傷から1週間以上経つが、暗赤色でまだscarとなっていない出血に対しては、硝子体手術が適応となる。具体的な手技としては、38ゲージ以下の針を用いて、人工的に網膜剥離を作成し、tPAを注入する。その上でガスを注入し手術を終了する。出血が広範な場合は、周辺部に意図的裂孔を作成し、そこから排出することもある。黄斑付近の出血を直接取りに行くことは避けるべきである。初診時にscarとなってしまう網膜下出血に対しては、すでに視

細胞が痛んでおり、大幅な視力の改善は期待できないことから、活動性の抑制のための抗 VEGF 薬の硝子体注射が適応となる。

臨床に即した大変有意義なレクチャーであった。

## (2) 海外研究者との情報交換会

### 1. 2月22日(月) SiteLife 研究者との情報交換会

出席者 Monty Montoya, Bernie Illikaris, Tom Carpenter, Jim Murphy, 外園千恵、木下茂、  
米国最大のアイバンクである SiteLife から来日した Monty Montoya, Bernie Illikaris を中心として外園及び木下が角膜内皮幹細胞の最新の研究にかかわる情報交換を行った。また、角膜内皮細胞の注入治療法の可能性について、さらに共同研究について議論した。米国との国際交流となる有意義な意見交換会であった。

### 2. 4月23日(水) 人口角膜学会後の情報交換会

出席者 : James Chodosh 夫妻 (MEEI USA) ,  
Geetha Iyer(Indo), Bhaskar Srinivasan(Indo), Christopher Liu(England), Mohamer Bahgay Goweida(Egypt), 学生 2 名、稲富勉、木下茂 (合計 9 名)  
第 10 回人口角膜学会後、現在の国際的な人口角膜の現状及び眼表面疾患の問題について意見交換を行った。また、併せて今後の共同研究グループ形成の可能性について協議した。

## (3) 国内研究者との情報交換会

### 1. 3月4日(金) 眼科領域の臨床研究に関する情報交換会

出席者 : 山田恵教授、橋本直哉教授、佐和貞治教授、木下茂、上野盛男夫 (計 5 名)  
眼科が行っている先進医療並びに再生医療などの臨床研究の進め方について放射線科、脳神経外科、麻酔科と将来の方向性を議論した。

### 2. 9月23日(金) 多能性幹細胞を用いた再生医療に関する情報交換会

出席者 : 梅澤明弘先生、木下茂、外園千恵、上野盛夫、今井浩二郎、佐藤貴彦 (計 6 名)  
講演会では、関西眼疾患研究会共催の平成 28 年京都府立医科大学再生医療シンポジウムに於いて、国立成育医療研究センターの梅澤明弘先生に多能性幹細胞を用いた再生医療についてご講演いただいた。情報交換会では、ヒト ES 細胞の臨床治験に利用できるレベルの試材を高効率で作製する方法や MSC 細胞の臨床応用の可能性について議論した。および梅澤先生と我々のグループのそれぞれの研究背景、研究環境、研究データについて情報交換を行うことができた。

3. 11月16日（水）網膜下出血の診断と治療のフローチャートに関する情報交換会

参加者：大島（おおしま眼科クリニック）、外園、小嶋、山岸、永田、寺尾、北澤、田中、三重野、石田

情報交換会。講演の内容について講演中にできなかった分の質疑応答を含め、今後の研究の展開や課題について補足説明をいただいた。有意義な会であった。

**（4）オープンフォーラム（共催：参天製薬株式会社・京都眼科医会）**

1. 第47回京都眼科フォーラム

1月16日（土）テーマ：みんなで学ぼう最新治療のトピックス

『前眼部炎症性疾患の診断と治療』

近間 泰一郎（広島大学大学院視覚病態学）

『緑内障手術新時代：広がる選択肢をいかに使いこなすか？』

東出 朋巳（金沢大附属病院）

『最近の硝子体手術のトピックスと眼循環から考えるその評価』

前野 貴俊（東邦大学医療センター佐倉病院）

好評の『みんなで学ぼう！最新治療』の症例編を企画いたし、各分野の最前線でご活躍の先生方をお招きした。選りすぐりの症例から、明日からの臨床に役立つ最新かつ最良の疾患に対する考え方を学ぶいい機会となった。（参加者実績：約150名）

2. 第48回京都眼科フォーラム

7月9日（土）テーマ：『診療に役立つ症例検討パートⅢ』

『視機能から考える眼内レンズ選択』

神谷 和孝（北里大学医学部眼科）

『黄斑上膜 -疫学、症状、手術適応-』

堀口 正之（藤田保健衛生大学眼科）

『緑内障 - どうしてこんな目に！ - 』

相原 一（東京大学医学部眼科学教室）

『治りにくい角結膜疾患の対処法』

島崎 潤（東京歯科大学市川総合病院）

以前から好評の症例検討会を企画し、網膜、視機能、緑内障、角膜の各分野で現在最もご活躍中の先生方に、症例を交えながら各分野のトピックスや最前線の内容を聞かせていた

だいた。(参加者実績：約 150 名)

**(5) 眼科診療アップデートセミナー (共催：下記の 11 企業との共済事業として開催)**

3月19日(土曜日)

開会のあいさつ 木下 茂(京都府立医科大学)  
加齢黄斑変性の診療アップデート 飯田 知弘(東京女子医科大学)  
網脈絡膜疾患の OCT の読み方 吉村 長久(京都大学)  
白内障治療の社会的インパクト 緒方 奈保子(奈良県立医科大学)  
白内障手術における屈折の考え方 清水 公也(北里大学)  
感染性内眼炎の診断と治療 大黒 伸行(JCHO 大阪病院)  
近視予防、斜視・弱視の治療法 不二門 尚(大阪大学)  
ドライアイ診療のアップデート 木下 茂(京都府立医科大学)  
プロスタグランジン点眼薬の考え方 相原 一(東京大学)  
知っておきたい神経眼科疾患 三村 治(兵庫医科大学)  
一日目のまとめ 木下 茂(京都府立医科大学)

3月20日(日曜日)

二日目のあいさつ 大橋 裕一(愛媛大学)  
多焦点コンタクトレンズを上手に使う 塩谷 浩(しおや眼科)  
角膜感染性とホストの関係 外園 千恵(京都府立医科大学)  
角膜浮腫とコロナサイン 大橋 裕一(愛媛大学)  
網膜循環障害に対する治療 門之園 一明(横浜市立大学)  
落屑症候群の考え方 山本 哲也(岐阜大学)  
ROCK 阻害点眼薬による眼圧降下 谷原 秀信(熊本大学)  
非感染性内眼炎の病態メカニズム 園田 康平(九州大学)  
眼内リンパ腫の診断と治療 後藤 浩(東京医科大学)  
黄斑上膜の考え方 岸 章治(群馬大学)  
閉会のあいさつ 大橋 裕一(愛媛大学)

(共催：エイムオー・ジャパン株式会社、大塚製薬株式会社、参天製薬株式会社、ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社ビジョンケアカンパニー、千寿製薬株式会社、株式会社ニデック、日本アルコン株式会社、バイエル薬品株式会社、ファイザー株式会社、HOYA 株式会社、ボシユロム・ジャパン株式会社 合計 11 社)

**(6) 視覚再生フロンティア研究発表会**

1. 第 26 回 6月4日(土) ウェスティン都ホテル京都

発表者：永田健児、山岸哲哉、中井義典、畑中宏樹、小嶋健太郎、米田一仁、渡辺彰英、上野盛夫、中村隆宏、池田陽子、稗田牧、稲富勉、森和彦、横井則彦、今井浩二郎、木村健一

## 2. 第27回 12月17日（土） ウェスティン都ホテル京都

発表者：石田 学、田中 寛、村上 怜、三重野洋喜、山脇 敬博、寺尾 信宏、山本 雄士、中山 知倫、山中 行人、加藤 浩晃、木村 健一

京都府立医科大学眼科において研究に従事するものが一同に介して、研究の進捗状況の報告と今後の方向性を検討することを目的として、第26、27回視覚再生フロンティア研究成果発表会を開催した。外園教授就任後、初の研究成果発表となった。研究発表はプレゼンテーション（8-15分間）の後に討論（3-5分間）を行った。臨床研究および基礎研究の成果と今後の展望が報告された。質問は活発に行われ、今後の研究について有意義な討論が交わされた。また厚生労働省へ出向中の木村健一先生（26,27回）及び加藤 浩晃先生（27回）には臨床研究の法・指針、レギュラトリーサイエンス等についてご講演いただいた。現在当教室で進行中の再生医療プロジェクトを進めるうえで有用な情報が得られた。今後の研究の発展につながる有意義な会議であった。

### （7）iseminar（アイセミナー）

#### 1. 第8回 iseminar フォーラム 4月2日（土）

医療の未来を考える～医師とMBAの可能性について～ 猪俣 武範（順天堂大学）

抗VEGF治療に終わりはあるのか？ 山本 亜希子（杏林大学）

マダムの紹介～加齢黄斑変性が免疫疾患である可能性～ 中尾 新太郎（九州大学）

変視について 岡本 史樹（筑波大学）

猪俣先生（順天堂大学）にはアメリカで基礎研究をしつつ、同時にMBAを取得した、その動機についてお話いただいた。「眼科の外来が混雑しているが、どうしたら良いか」という、皆が共有する課題を例に挙げて、問題の分析から解決案の出し方を教えていただいた。もちろん、これは一例であるが、ビジネス的な物事の考え方、進め方が今後の医療においても必要不可欠であることを痛感する機会となった。山本先生（杏林大学）には抗VEGF治療の現状について、ご自身の多くの臨床研究の成果を合わせてレビューしていただき、非常にわかりやすく、患者さんの満足度を指標に考えられる誠実なお人柄が伝わるご講演であった。中尾先生（九州大学）には加齢黄斑変性でM1マクロファージがM2マクロファージとなり血管新生に関わっているという説をご紹介いただいた。またそのプロセスにRhoキナーゼ（ROCK）のアイソフォームのうちROCK2が関与しており、ROCK阻害剤が治療

薬となりうる可能性についてもご講演された。新たな発症メカニズムの提案から、薬物療法の可能性まで見出すという素晴らしいご講演であった。岡本先生（筑波大学）には網膜剥離、黄斑上膜、黄斑円孔などで手術後においても大きな問題となる変視についてご講演いただき、定量的に評価されており、なにがどうなり症状がおきているのかということが明らかになっているとことに感銘を受ける講義であった。是非、治療法まで一気に明らかにしていただき、患者さんがお困りの状態から救えるようになってほしいと痛感した。

## 2. 第9回 iseminar フォーラム 8月8日（土）

公衆衛生を勉強してみよう！ 内野 美樹（慶應義塾大学）

生物進化の過程から考える加齢黄斑変性のメカニズム 栗原 俊英（慶應義塾大学）

突然目つきが悪くなる！甲状腺眼症に対する整容的な手術治療 鹿嶋 友敬（群馬大学）

IgG4 関連眼疾患を考える 後藤 浩（東京医科大学）

内野美樹先生（慶應大学）には Harvard T.H. Chan School of Public Health への入学の仕方から、どのようなことを学んだかということをご紹介いただいた。入学するのに異質なハードルの高さであること、入学後に厳しい勉強の日々が待っていることなど臨場感あふれたお話で、また、公衆衛生の基本となるものの考え方、それを実際に眼科の臨床研究にどういかすのかということをご紹介いただいた。正しい疫学データを得て、社会に貢献しようという意志がひしひし伝わってくる内容であった。栗原俊英先生（慶應大学）のご講演は普通をはるかに超越した面白さがあり、進化のある時点でいきなり生物に眼が出来たとのこと。それが進化とともにどのように変わってきたか。まるでテレビのよく出来たドキュメンタリーのようなお話であった。さらに、先生が着目されている HIF-1 と呼ばれる分子が加齢黄斑変性の発生に関わり治療ターゲットになりうるという最先端の研究の成果もご紹介いただいた。鹿嶋友敬先生（群馬大学）には甲状腺眼症の治療についてお話いただいた。UCLA での留学のご経験も踏まえ、世界でも広く行われている治療をよくご存知な先生だからこそご講演だと感じた。減圧術が非常に有効であり、特に視神経症には時間がたっても有効であるので積極的に考慮しないといけないとのこと。また、甲状腺眼症の発症率からすると例えば群馬県では 300 人以上が年間発症するのではないかとのこと。見落としなどないか、また治療の適応を経過観察していないか改めて自戒した。後藤浩先生（東京医科大学）には IgG4 関連疾患につき、疾患概念がどのような経緯でできてきたのかということをはじめにご紹介いただいた。日本人の研究者によるところが大きいとのこと。また、眼科領域では他臓器と比べて生検や加療の際に大きな組織がとれるために研究が進みやすい土壌にあるとのこと。後藤先生らのご研究で、フローサイトメトリーにより IgG4 関連疾患であることがかなり高い感度、特異度を持って診断できるようになったとのこと。

このようなバイオマーカーの同定は極めて重要と考えるので、いつもながら臨床に根ざしつつ、研究からまた臨床に役立つものを発見するという先生らのお仕事に驚嘆した勉強会となった。

### 3. 次世代医師が夢見る 眼科医療の未来

2016年11月4日（金） 於 第70回日本臨床眼科学会 モーニングセミナー

中尾新太郎（九州大）「20年後の加齢黄斑変性治療の予測」

臼井嘉彦（東京医大）「ぶどう膜炎診療の未来予想図」

米田一仁（京都府立医大）「網膜硝子体手術に残されたイノベーション」

根岸貴志（順天堂大）「小児眼科のアンメットメディカルニーズ」

奥村直毅（京都府立医大）「角膜再生医療は本当の医療になりえるか」

猪俣武範（順天堂大）「MBA と IoT は医療にイノベーションをおこせるのか？」

三宅琢（東京大）「眼科×IT～次の10年で実現することは？～」

来場者数 220名超（会場定員180名）

7:30開始のセミナーであったが立ち見での受講者も多くおられ、最終的に40名ほどの参加者が会場後方及び入り口外に立って聞かれることとなった。第1回目としては次につながる手ごたえを感じる、大成功と言えるセミナーとなった。アイセミナーのPRも十分にできたかと考えられ、新たな入会者を期待する。

臨眼全体的にモーニングセミナーの入りはよかったが、特に本セミナーは早くに満席・多数の立ち見参加者が出た等、評判が事務局側にも届いていたとのこと。

後援企業 エイエムオー・ジャパン株式会社、大塚製薬株式会社、参天製薬株式会社、千寿製薬株式会社  
（4社/五十音順・敬称略）

### （8）情報提供など

- ・オンラインサービス「iseminar」の会員に定期講演会や医学情報を提供した。
- ・オンラインサービス「iseminar」にて動画コンテンツ合計68本を公開、会員に向け情報提供を行った。（症例ドキュメント 3本、手術動画 38本、セミナー動画 27本）
- ・ホームページを用いて本研究会の活動内容や活動成果を公表した。